

[24_3] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :
24(3)

<https://doi.org/10.15017/18007>

出版情報 : 図書館情報. 24 (3), pp.17-26, 1988-10-29. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :

九州大学附属図書館報

図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 24, No. 3 (1988, 7~9)

目次

- レーニン図書館印象記 17
- 資料の探し方 (所蔵調査) について 22
- 昭和62年度レファレンス統計 24

レーニン図書館印象記

清水 孝 純

筆者は、1986年4月15日から、1987年2月14日まで、ソビエト・アカデミー所属の世界文学研究所において、研究する機会をめぐまれた。しかし実際は、研究は、レーニン図書館を中心に行ったので、今回は、そこでの印象記といったものを記すことにする。レーニン図書館は、1861年に創立された世界最大の図書館のひとつである。ここには、われわれ日本人にもなじみの深いロシアの知識人たちが通ったという。トルストイ、ドストエフスキー、メンデレーエフ、ティミリャーゼフ、チェホフ、また19世紀末には、レーニンが、通っている。筆者自身としては、教養部分館とレーニン図書館の間で、以前から図書の交換をやっていたので、すでにその名前は親しいものがあつた。1986年4月15日モスクワ到着後、およそ一週間ほどでパスポートがもどってきたので、それを持ってでかけた。

〈輝く白亜の殿堂〉

レーニン図書館は、クレムリンからほんの数分のところにある。僕の宿るアカデミー・ホテルからトロリー・バス一本で行ける。いわゆるマネージュと呼ばれる巨大な建物の角で、バスがぐるりとひと廻りしたところに堂々たる白亜の殿堂が姿をあらわす。ぎいと鳴る重い三重の扉を押して入ったところに案内所がある。



モスクワ大学を背景にして 筆者

そこを通過して、入口に達するまでいわゆるクロークで、両側に外套掛けがびっしり並んでいて、十人ぐらいの掛員が、入館者の外套やカバンをうけとっている。小型の赤い固い表紙の薄い手帳のような入館証をもらって、入口にむかう。入口は大きな階段の下にある。整理券を手にして階段を昇ると、両側にずらりとカード・ボックスが並んでいる。そこでは、これまでのロシア、ソビエトでの出版物の全てがカードに納まり、作者別・項目別に分類されている。階段を昇るとき、手すりにもたれて人々が階段を昇ってくる入館者を上から眺めている。静かなざわめきが、大きな空間に満ちている。全ては大理石づくりだから、その堂々たる威厳ある雰囲気は独特なものである。

〈重厚なる第一読書室〉

われわれ外国からの研究者は、第一読書室というところに入る。大階段を昇り、つき当たったところにある。全身の力をかけなければ開かないようなこれまた重い扉を押して入ると、まず部屋の中央に下った巨大なシャンデリアが眼を奪う。直径7～8メートルぐらいはありそうだ。それを囲むようにして、1メートル幅の大理石の角柱が4本部屋の中央にそそり立っている。天井は、ルリエフのある大きな4本の角柱で9等分に区切られ、シャンデリアはその中央の四角い柵組のなかに吊り下げられている。部屋全体は正方形で、高い窓が大空を見せている。机は、この広い空間に大体縦横6行6列ぐらいにゆったり置かれている。机は、中央が本棚で仕切られていて、その片方をひとりが独占できる。

この第一読書室は、元来はソビエト・アカデミー会員とか、年輩のドクター所有者のためのものというが、外国人の研究者もここでの使用を許されているのである。一般のロシア人は第三読書室に入る。この読書室は、第一読書室よりはるかに広く机の数も比較にならないほど多い。それに二人掛けだから、出入りも激しく、全体としては、ざわざわして落ち着かない。従って、第一読書室の使用を許されているということは、大変ありがたいことなのである。それには、あるいは政治的なイミもあるかもしれないが、いずれにせよ、大学院程度とみられる外国人の男女学生が、ロシア人の、白髪の老研究者にいまじって机にむかっている様子は、一種奇異な感じがしないでもない。

〈積みあげた書物〉

第一読書室では話し声はほとんどない。入口に机が置かれていて、常に一人の若い女性が研究者の世話をしている。読みたい本は、用紙に書いて、彼女の机の上に置いておけばよい。午前中に申し込めば、午後には本をそろえてくれる。この図書館の研究上の大きな便宜は、借り出した本をひと月ぐらい独占できるということであろう。継続したい本は、第一読書室のすぐ外に、借出・返却のための控えの部屋があって、それぞれの入館証の番号によって指定された場

所に継続希望の本を置けばよい。翌日来たときにそれをそのままとるのである。これは大変便利な制度で大いに助かった。一度に借りるのは5冊ぐらいが限度だが、継続して借り出すと20冊ぐらいはわけなくたまる。広い机狭しとばかりに拵げて、研究に専心する人も多い。事実、ドクター論文にとりかかっているような人もちらほら見かけた。

〈書物のそろっているのに感心〉

レーニン図書館で感心したのは、書物がよく整備されていることだ。ひとつのタイトルについて、複数の部数が揃えられているから、要求した書物はたいてい手に入る。というのも、ソ連で出版される本は、二冊ずつ納めるのが義務づけられているからである。もっとも、書物によっては、カードのないものもある。試みに、ソルジェニーツィンや、ブハーリン、トロツキーなどのカードを調べてみたが、勿論あるはずもない。しかし、カードがあるものなら、原則として借り出しが可能ならずである。ただわれわれにとつて不自由なことは、筆記用具以外、一切の書物を持ちこめないということである。つまり辞書類もダメだということである。しかし、その点での配慮もなされていて、第一読書室には、あらゆる種類の——といっても主としてロシア語によるものだが——辞書がそろっている。露和辞典についていえば、岩波書店のもの、三省堂のものなどあるが、八杉氏のは、ポロボロで使いものにならない。それにいずれも一部しかないので困ることもある。

〈必要悪?としての管理〉

書物を持ちこませないことは、管理がしやすい、つまり書物の盗難が少なくなるのだから、結局は利用者自身のためになるというわけだ。管理という点でいえば、退館の際の出口に民警がいて、持物をチェックする。女性など小さなバッグをあけさせられるし、ノートなどもペラペラめくらなくてはならないことも多い。カーキ色の制服を着た男性、あるいは女性はその係りだが、ひとによってずい分と態度が異なる。ほとんど見ない場合も多い。時に気がむくと(?)エンピツの先でちょいちょいノートや紙ばさみ

などをめくる。その手つきは独特で、一種象徴的儀式にまで化した感がある。まず日本では見られない光景だが、なれば別にどうということもなくなるというのも事実だ。

このような管理はフランスでもないことはないものであり、パリの国立図書館でも入口ではカバンを開いてみせる。しかし、読書室への私物の持ち込みは自由だ。ソビエトの図書館の方が管理が厳しいというのも、公共材にたいするより厳しい思想のあらわれなのであろうか。このような管理が、書物の紛失をより少ないものにするのに役立つとすれば、これも一種の必要悪といえるかもしれない。

〈潤沢きわまりない係の麗人たち〉

このような管理がなされるというのも、人員がたっぷりあるせいだろう。なにしろ、係員の数の潤沢なこと、少なくとも日本の大学の図書館などでは、全く想像がつかない。係員はみな女性だが、いたるところに配置されていて、閲覧の上の便宜をはかってくれる。カード・ボックスが置かれているのは先に述べたように、正面入口の大階段の両わきの空間だが、そこにずらりと並んだひとつひとつのカードの棚と棚との間に、数人の参考掛りが坐っているのだから恐れ入ってしまう。カードもよく整理されていて、ひとつひとつの項目を眺めていると、この国の過去の歴史がよみがえってくるかのような印象をうけて興味深いものがあつた。しかし、カードを探るのも、混み合っただなか大変である。そこで割り込んでいって、自分の求めるカードを探すということになるが、そのときロシア人の、「ちょっとゴメン」というような言葉が、蚊の鳴くようにささやかれるのが、なんとなくおかしかった。

〈食べ物の恨みはこわい?〉

読書室というのがどれくらいあるのか。(ソビエト大百科によれば22あるそうだ。)第二読書室というのはこれまた広いが理工系らしい。そのほか、新刊書のところとか、また雑誌新聞の、大きな閲覧室があつた。そこには外国の新聞も置かれている。なお、この図書館に入れば、一日ゆっくり時をすごせるといってもいいのだが、

どういうわけか、坐るベンチのようなものがほとんどないのが苦痛だった。それは、地下の食堂にもいえることで、いうなれば、くつろげる場所が少ないということである。したがって、雑談は第一読書室の外の廊下で立ちばなしということになるが、話し声が大きくていつも叱られたものである。

ところで、ここでちょっと食堂のことを書いておこう。食べ物の恨みはこわいというが、食堂のことを書く気になったのも、いささかそういうこともあるかもしれない。なにしろ、混んで行列が長くできていて、15分ぐらい待たされる、味は悪いうえ、食卓というのが、キノコ状のテーブルで立食である。混んでいるので遅くゆくと、メニューが少くなるという始末。長い行列のあとに続きながら、計画経済の社会にしては、ずい分ムダな時間の浪費が多いな、と考えたことだった。しかし、パリの国立図書館などでは内部に食堂はなかったから、それに比べれば便利といえるかもしれない。とにかくこの食堂は評判わるく、親しいロシア人は、大変憂っていたものだ。彼の話だと、その食堂はモスクワ中で一番悪いというのである。実際にそのとおりで、なぜそうかといえば、彼の話によれば支配人が悪いということであつた。もっとも、これは、ペレストロイカが真剣にとりあげられる前のことだから、現在はよほどよくなっているかもしれない。

〈帰国を迎える頃〉

まあこんな雰囲気のかなで、10ヵ月を過した。長い昼の陽がやがて短くなり、激しい寒気がやってきても、暖房のおかげで、寒い思いはない。時をすごすにつれて、ロシア人の知人も出来る。あるいは、クロークのおばさんたち、また第一読書室の係の女性たちとも親しくなる。10ヵ月の滞在を終えて、帰国する頃ともなると、心が残る、そんな思いがあつたのも、事実である。

〈コピー合戦〉

そうそう、コピーのことを一言つけ加えておこう。コピーは、われわれ外国研究者にとっては、もっとも関心のあるところのものだ。4階だけに、コピーを申し込む場所があり、そこに

所定の用紙に書き込み、申し込む。枚数は、ゼロックスで1人20枚という限度が定められている。マイクロフィルムは、それに比べると、制限という制限はない。費用は、ゼロックス1枚10カペイカ(当時の邦価で25円ぐらい)、マイクロでひとコマ4カペイカ(10円)であった。ゼロックスは、枚数制限が20枚と厳しいが、実際には、そこら辺はてきとうである。そこでは、各読書室ごとに時間帯がきまっていて、第一読書室は3時ぐらいからだったろうか。いつもその頃になると、本をもって出かけてゆくというのが、外国の研究者の日課のようなものだったが、大変、混んでいて、注文するまでが、ひと苦労だった。しかし、受付けのおばさんたちは、何ともいえず人間的であった。ロシア人は、大きなソロバンが好きだ。枚数を計算し、お金を計算するのに、その黒光りした大きなソロバンをはじく。それはゆうゆうたるものである。

日本の研究者で、とくに1920年代の政治経済専門にしている人たちは、注文したコピーの許可がないというのでこぼしてた。現在はよ

ほどよくなっているかもしれないが、当時は、かなりの数が不許可になった。いつも苦情を聞かされたおぼえがある。それで、研究者と、受付けのおばさんたちの、暗暗のうちの闘いがはじまるというわけである。一度不許可になったくらいであきらめてはダメである。根気よく申し込んでいると、人によって、また同じ人でもその時その時の虫のいどころによって許可になることもたびたびあったようである。

10年ぐらい間を置いていったある友人の話だと、その品のよい年とったおばさんのひとりには、10年前から同じように働いていたそうである。おそらく、この瞬間にも彼女らは、太った身体に汗をかきながら、イヤリングをぶらぶらさせて、外国の研究者たちのうるさい注文と闘っているであろう。ロシア人の人の好き、面白さというものを感じたのも、このおばさんたちとのやりとりを通じてであったように思うと、今でも心温まる思いがある。

(教養部分館長)

(((学内図書館だより)))

工学部共通雑誌(外国雑誌)の利用について

— 工学部図書掛 —

今般、工学部主要学科(機械系・電気系・化学系等)の外国雑誌1946年以降所蔵のもの約40,000冊を保存図書館へ移し集中管理することになりました。

これら新旧外国雑誌については、学内外の共同利用に供するため、また学科雑誌と区別するため、工学部共通雑誌と称しています。

共通雑誌利用上の留意点については、下記のとおりです。

- ① 共通雑誌の利用時間については、8月中を除き平日は9:00~20:00、土曜日は9:00~16:30まで延長開館をしています。
- ② 入館の場合は、図書館利用者票・身分証明書・学生証等をカウンターで提示してください。
- ③ 共通雑誌の配架場所については、新着雑誌(約570種)及び未製本雑誌は、2階共通雑誌室に、製本雑誌は書庫棟2・3・4層に誌名順配架をしています。
なお、書庫内は禁煙となっておりますので、ご注意ください。
- ④ 共通雑誌の閲覧については、誌名順に配架していますが、早い検索手段としては、備付のタイトルリストを参照してください。

なお、空調完備の共通雑誌閲覧室に限り喫煙席を用意しています。

- ⑤ 共通雑誌の貸出については、所定の手続(利用者票または相互利用申込書が必要)により、製本雑誌は3日間の貸出ができます。新着雑誌と未製本雑誌は、オーバーナイト貸出に限りますのでご注意ください。

なお、この外に複写等の便を図るため、短時間の一時貸出を認めています。

- ⑥ 図書・雑誌等の書誌所蔵調査については、端末機稼動時間の関係で平日は17:00、土曜日は12:00まで受付しますのでご利用ください。

なお、12:00~13:15まで端末操作は休みなので、ご注意ください。

- ⑦ 専用複写機(現在2台目を増設申請中)の利用については、複写経費の移算問題もあるため、工学部教職員に限ります。

[工学部図書掛では複写管理のため、キャノンコントローラⅢを採用し、学科講座等の予算区分200区分の複写枚数を機械的に集計し、四半期毎に複写経費の移算処理をしています。このカード読取り装置は、最大限200区分なので工学部内処理能力が限度です]

このため、他部局の利用者は一時貸出を受けて、図書本館備付けの全学共同利用複写機をご利用ください。

なお、筑紫地区等の利用者のためには、校費による学内文献複写依頼の方法もありますので、該当部局図書掛を経由し中央図書館相互利用掛へ申込みください。

- * 共通雑誌の利用上の問合せについては、工学部図書掛(九大代表電話641-1101 内線5116-5118)へご連絡ください。

本学教官著作寄贈図書

〈中央図書館〉

岡村 繁 (文・名誉教授)
白氏文集3 (新釈漢文大系99)
明治書院 1988

前田 重治 (育)
不適應の精神分析
慶応通信 1988

丸野 俊一 (育)
知能はいかにつくられるか
力富書房 1988

石崎 文彬 (農)
P. F. Stanbury, A. Whitaker 著 石崎文彬(訳)
発酵工学の基礎 (実験室から工場まで)
学会出版センター 1988

山口 宗之 (養)
あ、若き日の光榮は — 七高時代の回顧 —
一正堂 1988

〈教養部分館〉

柳瀬 敏幸 (医・名誉教授)
いのちの流れ
西日本新聞社 1988

宮地 六美 (養)
アメリカでお墓について考えた
石風社 1988

山口 宗之 (養)
あ、若き日の光榮は — 七高時代の回顧 —
一正堂 1988

〈文学部〉

竹沢 尚一郎 (文)
象徴と権力
勁草書房 1987

〈教育学部〉

丸野 俊一 (育)
知能はいかにつくられるか
力富書房 1988

〈法学部〉

有地 亨 (法)
現代家族の機能障害の実態と紛争処理の総合的研究 1-2
九州家族研究会 1985-1986
現代社会における法的問題処理
九州家族研究会 1987

〈経済学部〉

古瀬 政敏 (経)
アメリカの生命保険会社 — 金融革命下の経営戦略 —
東洋経済新報社 1988

利用の窓

資料の探し方(所蔵調査)について

— 中央図書館参考調査掛 —

昨春、検索用端末機が参考調査掛に導入されて、資料の検索の仕方がカードの検索から端末機の検索の方へ移行しつつあります。又、さらに学術情報センターとの接続で、学外所蔵資料の検索も変化しつつあります。ここに資料の探し方を改めて掲載しますので参考にして下さい。特に学内所蔵の雑誌の検索は端末機の利用が効果的です。

(1) 雑誌の所蔵調査

- ・レファレンスデスク横に設置している端末機で検索を行います。
九州北部7大学ネットワークシステムにより、九大を始め、他の6大学の所蔵・受付到着状況が判ります。端末機の方法は雑誌検索マニュアルに従って下さい。
- ・オンライン停止時間中の調査は、端末機傍の九大学術雑誌総合目録(コンピューター打出目録)で調べます。
- ・古い雑誌は、学内雑誌総合目録(カード目録)で調べることもできます。
- ・他機関所蔵の雑誌の調査資料は、学術雑誌総合目録、各機関所蔵雑誌目録等、各種冊子体目録があります。

また、端末機を使って、学術情報センター目録所在情報データベースで、全国の機関の和・洋雑誌の所蔵が判ります。

(2) 図書の所蔵調査

(A) 和書の場合

- ・学内の所蔵を調べる場合、通常、学内総合目録でさがします。
総合目録は、学部によってAブロック、Bブロックに分かれています。
Aブロック(図書館・文・育・法・経・理・事務局所蔵)一書名順で配列は電話帳方式
Bブロック(医・歯・薬・工・農・大計セ・医短・筑紫地区キャンパス・養)一書名順で配列はアイウエオ順
- ・理・農学部の図書は、配架場所を探すために、再度当該学部の目録カードを引きます。
ただし、最近数年間分の図書は、総合目録にカード繰込みを中止している学部が相当数ありますので、端末機による検索が必要です。レファレンス係員にお尋ねください。

(B) 洋書の場合

- ・学内の所蔵を調べる場合、通常、学内総合目録で探します。
総合目録は、和書と同様に学部によってA・Bブロックに分かれていて、著者名順に配列しています。
- ・理・農学部の図書は、再度、当該学部の目録カードを引きます。
また、和書の場合と同様に、最新の図書は端末機による検索が必要です。
- ・他機関所蔵の図書の調査資料は、和書の場合は、国立国会図書館蔵書目録、洋書は、新収洋書総合目録があります。
また、端末機を使って、学術情報センター目録所在データベースで、最近の和洋図書の全国の大学の所蔵が調べられます。

レファレンスルームから

アメリカの大学カタログ(英文・マイクロフィッシュ)の1986年版をレファレンス事務室に備え付けましたのでご利用下さい。なお、最新のものは福岡アメリカン・センターで利用できます。

◆ 研 修

昭和63年度 大学図書館職員長期研修に参加して

〈とき：昭和63年7月18日～8月5日〉

松 本 孝 文

今年度の研修は、図書館情報大学および学術情報センターを主会場として、国立30大学、国立大学共同研究利用機関 2、公立1大学、私立4大学 合計37名(内女性10名)の参加でほぼ例年通り実施された。

この研修は、学術情報システムの中での大学図書館の役割 (1). 一次資料の体系的・効率的な収集・整備と全国的ネットワークによる有効な提供。(2). 学情センターの提供する目録システム・データベースの利用による全国的総合目録データベースの形成。(3). 学情センター、大型電算機センター等の提供するデータベースの検索サービス。以上3点を明確にし大学図書館の情報提供サービス体制の確立を図る目的で開かれたものである。

学情システムの中核機関として位置づけられた学情センターが発足して3年目を迎えた。現在62大学(国立50, 私立12)ですでに接続を完了しており、この2～3年で全ての国立大学との接続を終える予定である。また、総合目録データベースにも図書約86万件、雑誌約180万件(昭和63年7月現在)の所蔵が登録されている。所蔵データのオンライン入力件数も月平均5～6万件を維持しており、目録システム運用の定着化とともに今後とも増加がみこまれている。一方、和図書については国立国会図書館が昭和67年までに、洋図書については東京大学所蔵の約260万冊を遡及入力し、全国的遡及入力の基盤が完了するとされている。今回の受講者の所属機関も約半数が学情センターとの接続を完了しており、その他独自のシステムでの業務電算化や予算要求中の大学がほとんどであった。共同研究討議の中でも業務システム化に関する意見が出されたので紹介して報告にかえたい。

OPAC (オンライン利用者用目録)の導入について

OPACの導入により、利用者に対する目録情報の提供をオンラインで行っている図書館が増加している。従来のカード目録に比べ、極めて大量のデータの中から迅速に検索出来ることに加え、複数の条件を任意に組み合わせるなど多

面的なアクセスが可能となった。しかし、限られた予算の中でシステム化を行っている現状では、コンピューター資源の問題や業務用端末との関係で、利用者向け端末が十分確保されているとはいえない。また、パッケージによる導入にあたっては提供される情報の内容や検索システムについて、利用者の立場にたった見直しを行い改善すべき点は図書館が共同でメーカーに要求するなど、ユーザー間の連絡を密にする必要がおきている。数年先には従来のカード目録からOPACサービスに移行し、学内LANを経由し直接研究室へ目録情報を提供することになるであろう。今後の開発・整備が主要な課題となっている。

図書館間相互貸借について

データベースの構築が進むにつれて利用者の要求は個々の大学図書館が所蔵している資料に限らず、「利用可能な資料」へと拡大している。総合目録データベースは「資源共有の理念に基づく相互貸借」を前提としたものであるにもかかわらず図書の供給体制は不十分なままである。部局図書室・研究室などへの資料の配置や長期的貸出しなど問題点も多いが、全国的なガイドラインの設定やマニュアルの作成など相互協力体制の整備が急がれている。その他、品質管理の為の入力マニュアルの整備、参照MARCやNACSIS-IRのデータベースの増強など学情センターに対する要望もだされた。

本研究会の初日に、図書館情報大学図書館長竹内愨先生より「われわれは、今、図書館にはじめて入って来た人(新入生・研究者・外部からの利用者)の『目』をもてるだろうか?」というひとつの問いかけがあった。

本学においても、インターフェース開発の完了・学情センター地域講習会の終了にともない、地域システムから学情センターの目録システムへ移行しようとしている時期に参加し、もう一度利用者の立場から大学図書館を見直してみる必要性を考えさせられた研修であった。

(経済学部図書館)

(((図書館統計)))

昭和62年度 レファレンス統計

(中央図書館)

受 付 目	利 用 者 別					内 容 別			
	学 内			学 外	合 計	所 在 査	事 項 査	利 用 指 導	合 計
	学 生	教 職 員	小 計						
デ ス ク	3,303	1,539	4,842	956	5,018	5,018	289	491	5,798
事 務 室	564	647	1,211	847	2,058	1,881	175	2	2,058
合 計	3,867	2,186	6,053	1,803	7,856	6,899	464	493	7,856

昭和62年度 情報検索分野別統計 (中央図書館)

(1) DIALOG 検索申込件数 30件

ファイル内訳

項 目	分 野	人文・社会科学		科 学 技 術			医学・ライフ サイエンス	計	
	ファイル名	ERIC	PSYCINFO	CA Search	BIOSIS	CAB Abs	FSTA		MED
	ファイル内容	教 育	心 理 学	化 学	生命科学	農業・畜産	食品科学		医 学
	ファイル番号	1	11	308-312 320. 399	5・55	50・53	51		154・155
ファイル接続数	2	1	16	7	3	3	3	35	

(2) JOIS 検索申込件数 81件

ファイル別内訳

項 目	ファイル名	JICST	CA Search	BIOSIS	MEDLINE	TOXLINE	INSPEC	計
	ファイル内容	科学技術	化 学	生 物 学	医 学	毒性文献	物理電気	
	ファイル番号	010・011 012	210・211	320・321	110・111	120	350	
ファイル接続件数	56	34	10	0	2	1	103	
S D I 件 索 数	0	0	0	12	0	0	12	

昭和62年度 情報検索学部別利用者統計

(中央図書館)

部 局 名	件 数		
	JOIS	DIALOG	計
工 学 部	52 件	3 件	55 件
農 学 部	19	19	38
理 学 部	3	3	6
応 研	2	0	2
総 理 工	5	0	5
歯 学 部	0	2	2
教 育 学 部	0	3	3
合 計	81	30	111

(((お知らせ)))

このたび、「JOIS」による情報検索サービス料金が別表のとおり改定になりました。詳しいことは参考調査掛にお尋ねください。併せて「DIALOG」で検索使用される主たるファイルの現在の料金も掲載しました。

JOIS

1. オンライン料金

料 金 データ ベース名	ファイル 接続料金	オンライン 回答出力料金	オンライ ン料 金		
			手配料金	回答出力料金	
				Aタイプ (抄録付)	Fタイプ (抄録なし)
JICST	180 円 / 分	30 円 / 件	500 円 / 回	55 円 / 件	37 円 / 件
JICST (E)	120 円 / 分	45 円 / 件	500 円 / 回	56 円 / 件	56 円 / 件
MEDLINE	180 円 / 分	25 円 / 件	500 円 / 回	49 円 / 件	39 円 / 件
TOXLINE	366 円 / 分	42 円 / 件	500 円 / 回	71 円 / 件	53 円 / 件
BIOSIS	281 円 / 分	47 円 / 件	500 円 / 回	—	55 円 / 件
CAB	208 円 / 分	63 円 / 件	500 円 / 回	88 円 / 件	70 円 / 件
INSPEC	295 円 / 分	69 円 / 件	500 円 / 回	97 円 / 件	79 円 / 件
INIS	180 円 / 分	30 円 / 件	500 円 / 回	55 円 / 件	37 円 / 件
FSTA	267 円 / 分	50 円 / 件	500 円 / 回	75 円 / 件	57 円 / 件

2. ユーザーSDI料金

データベース	基本料	回答出力料金
JICST	1,540 円 / 1 検索	55 円 / 件
JICST (E)	1,360 円 / 1 検索	56 円 / 件
JMEDICINE	1,600 円 / 1 検索	49 円 / 件
MEDLINE	1,480 円 / 1 検索	49 円 / 件

DIALOG

ファイル 番号	ファイル名	ファイル使用料 / 時間	全レコード(F5)/件	
			オフライン プリント料	オンライン タイプ料
10・110	AGRICOLA	39 ^{ドル}	0.20 ^{ドル}	0.10 ^{ドル}
5・55	BIOSIS	93	0.40	0.32
50・53	CAB	57	0.35	0.30
308-312 399	CA SEARCH	105	0.46	0.33
8	COMPENDEX	108	0.47	0.35
72-172-173	EMBASE	96	0.42	0.55
1	ERIC	30	0.14	0.10
12-13	INSPEC	111	0.60	0.54
154-155	MEDLINE	36	0.20	0.05
6	NTIS	72	0.45	0.40
11	PSYCINFO	55	0.20	0.35
185	ZOOLOGICAL REC	87	0.30	0.26

学術情報センターへの入力

学術情報センターシステムと九大システムとのインターフェイスが完成し、8月より和書・洋書ともNC(学術情報センター)への入力と地域データベースへの取り込みが可能になりました。和書については準備が整い入力を開始した部局も出始めており、洋書についても中央図書館とML館の一部が入力を開始しました。(情報システム課)

附属図書館商議委員会委員名簿 (昭和63年9月1日現在)

委員長	館長	平 嶋 義 宏	委 員 (歯)	教 授	末 次 恒 夫
委員 (文)	教 授	中 野 三 敏	〃	(〃)	太 田 道 雄
〃 (〃)	〃	川 添 昭 二	〃	(薬)	吉 村 英 敏
〃 (育)	〃	諸 岡 和 房	〃	(〃)	植 木 昭 和
〃 (〃)	〃	高 野 桂 一	〃	(工)	原 田 耕 介
〃 (法)	〃	近 藤 昭 三	〃	(〃)	松 田 勗
〃 (〃)	〃	徳 本 正 彦	〃	(農)	奥 田 武 男
〃 (経)	〃	山 崎 良 也	〃	(〃)	菅 野 道 廣
〃 (〃)	〃	武 野 秀 樹	〃	(養)	清 水 孝 純
〃 (理)	〃	本 村 欣 士	〃	(〃)	矢 ヶ 部 巖
〃 (〃)	〃	Takahashi Tutomu	〃	(総理工)	小 川 禎 一 郎
〃 (医)	〃	遠 城 寺 宗 知	〃	(〃)	片 山 忠 久
〃 (〃)	〃	中 山 文 夫	〃	(機)	小 林 宏
			〃	(応)	高 橋 清

◆ 人事異動

- 9.1 大神 義生 (農学部附属演習林) 庶務掛長
 〃 石橋 紘一 (人事掛長) 農学部

◆ 日 録 (昭和63年7月～9月)

- 7.18～8.5 昭和63年度大学図書館職員長期研修 (経済 松本)
 8.19 九州地区医学図書館協議会総会 (熊本大学)
 8.29 昭和63年度九州地区国立学校等会計事務研修 (阿蘇青年の家 古賀幸成)

編集委員 主査・辻本 和央 委員・天野 二郎, 大神 義生, 福永 寿夫(中央図書館), 緒方 義信 (医学分館), 大賀 利彦(教養部分館), 三島 博義(理), 山田 玄連(法)

九州大学図書館報「図書館情報」 Vol. 24, No. 3 (通巻151)

1988年10月29日発行・発行人 吉岡 千里

発行所 九州大学附属図書館・〒811福岡市東区箱崎6丁目10番1号 電話 641-1101 内線 2454